

# まちの魅力を未来に紡ぐ 選ばれる学研都市精華町 を目指して



このたび精華町では、町の最上位計画である「精華町第6次総合計画」の基本理念のもと、本町が引き続き発展を続けるとともに、将来にわたって安全で安心して暮らし続けることができるまちの実現を目指し、精華町都市計画マスタープランの改定と、新たに立地適正化計画の策定を行いました。

これまで本町は、関西文化学術研究都市の中核を担う都市として、秩序ある都市基盤の整備と良好な住環境の形成を進め、ついに「学研都市精華町」の概成が視野に入る段階にまで発展を重ねてまいりました。

一方で、全国的な少子高齢化の進行や人口構造の変化、気候変動に伴う自然災害の激甚化、さらにはコロナ禍を経た社会経済情勢や生活様式の変化など、本町を取り巻く環境は大きな転換期を迎えています。

このような状況の中で、国においては、人口減少社会に対応するため、都市機能や居住を適切に誘導し、持続可能な都市構造へ転換する「コンパクトシティ」の考え方が示されています。

本町においてもその理念を踏まえつつ、単に市街地を縮小するという考え方ではなく、第6次総合計画で示した京阪奈新線の延伸を想定した、「精華町版コンパクトシティ」の形成を目指すための都市計画の全体図として都市計画マスタープランを改定し、より具体的に進める運用指針として、拠点の魅力と利便性を高め、安心して暮らし続けることができる居住環境を適切に維持・誘導するため、新たに立地適正化計画を策定しました。

今回、都市計画マスタープランと立地適正化計画を一体的に策定することで、これまで築いてきた学研都市としての都市基盤や交通ネットワーク、町内の各地域の特性を活かしながら、課題、ニーズを踏まえつつ、両計画の整合性を確保し、より効果的かつ効率的な都市づくりの基本方針を定めています。

両計画の策定にあたっては、本町がこれまで学研都市の発展とともに歩んできた都市づくりの系譜を大切にしながら、第6次総合計画にて掲げた町の将来像『人がつながり夢を叶える学研都市精華町』を実現するために、町の土地利用や住環境の特性、そして木津川の氾濫をはじめとする水害リスクなど、地域固有の課題を丁寧に分析した上で、国・府の制度や社会的要請を踏まえつつ、町民の皆様や関係機関からのご意見を伺いながら、検討を重ねてまいりました。

これらの計画に示す施策や方針は、町民、事業者、行政がそれぞれの立場で連携・共有しながら都市づくりに取り組んでいくための共通の土台となるものです。両計画が、将来世代に引き継ぐまちの姿を共有するための共通の指針として活用され、町民の皆様とともに育てていく計画となることを願っております。

結びに、計画の策定にあたり、町民アンケートやワークショップなど、計画策定にご参加いただきました町民や事業者の皆様方、そして多くの時間を割いて提言を取りまとめたいただいた町議会議員の皆様、熱心にご議論いただきました都市計画審議会の委員の皆様をはじめ、多大なるご尽力と貴重なご意見を賜りました関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

令和8（2026）年3月

精華町長 杉浦正省